

# 第六次総合計画 施策評価シート(令和元年度)

2-⑤

**施策**  
地域に根ざした商店街の活性化を図る

**担当部局**  
文化産業局



**【躍動】** めざまちの姿 商店街がにぎわい、まちに活気がある

**市の基本方針**

- 地域住民の利便性や、交流の場としての機能を向上させるなど、商店主同士が連携し、地域の方々に愛される商店街をめざす取組を支援します。
- 商店街の活性化に向け、次世代を担うリーダーや商店街で商いをする若手商店主を育成する取り組みや、地域の資源を活用するなど、魅力にあふれた商店街をめざす取組を支援します。
- 倉敷駅周辺では、駅南北を一体とした回遊性を生む新たな商業・観光拠点とするため、南北エリア間相互の交流を主軸に、駅北側の複合型商業施設のエリア、倉敷美観地区、倉敷中央病院を中心とするエリア、商店街のエリアの各エリア間の交流を促進し、商店街や複合型商業施設が、共存・共栄する取組を支援します。
- 今後予測される買い物弱者の増加など、社会課題の解決に向けた、事業者の積極的な取組を支援します。

**数値目標**

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
商店街が魅力的であると思っている人の割合	↑	市民アンケート調査で「市内の商店街が魅力的だと思いますか。」という設問に対して、『そう思う』『どちらかというと思う』と回答した人の割合。 ※H21(基準値)の設問は「商店街が魅力的だと思いますか。」
		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、3.9ポイント上がり、前年度に比べ、1.5ポイント上がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P53】</p> <p>(Ⅱ) 各年代、性別で、市内の商店街が魅力的であると思っている人の割合が低い結果となった。</p> <p>(Ⅲ) 商店街が魅力的であると思っている人の割合は、目標値まで、15.2ポイント離れており、更なる商店街活性化施策が必要である。</p>

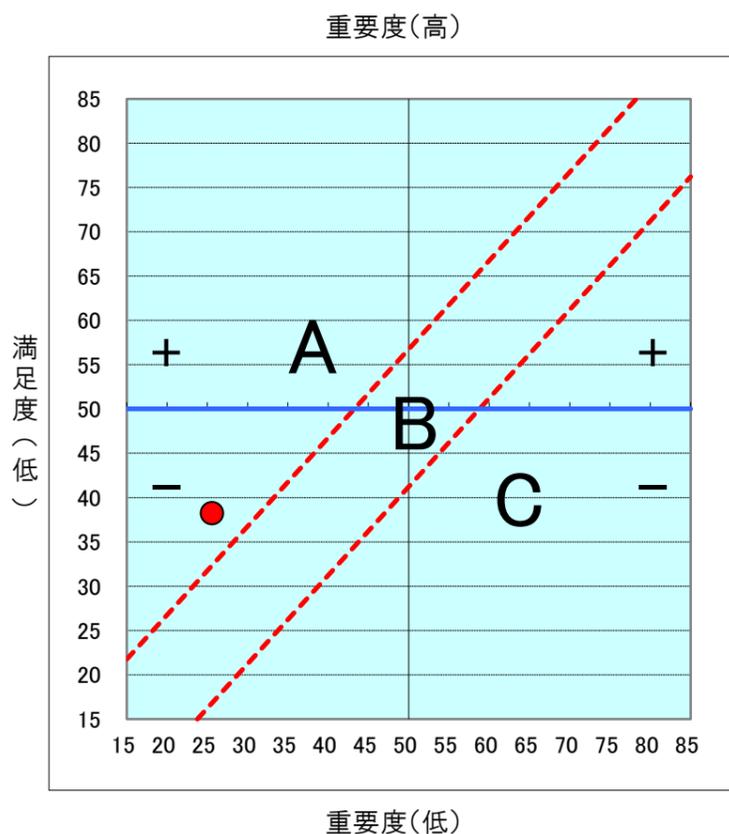
まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
市内商店街の休日一日当たりの通行量	↑	倉敷市商店街等通行量調査より(2年に1回)
		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、33,950人増え、前年度に比べ、11,160人増えた。</p> <p>(Ⅱ) 倉敷地区の中心市街地で通行量が増加し、児島地区では大幅に増加している。水島地区の商店街で微減、玉島地区で減少している。</p> <p>(Ⅲ) 中心市街地活性化施策の効果により、倉敷地区及び児島地区商店街において、通行量が増加しており、全体として、目標値を大きく上回っている一方、玉島地区では減少、水島地区の商店街ではほとんど変化がない。目標達成のためには、各地区商店街の底上げが課題である。</p>

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
商業集積地の売上高(百万円/年)	↑	商業統計より(5年に2回「簡易調査と本調査」) R元年から経済構造実態調査に変更(経済センサス活動調査実施年以外の毎年)
		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>※平成30年度は調査を行っていないため、実績値なし。</p>

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度 決算額 (千円)
	倉敷市商店街連合会補助金給付事業	(Ⅰ) 市内商店街の活性化を目的に実施した。 (Ⅱ) 倉敷市商店街連合会が実施する商店街振興事業に対して補助をした。土曜夜市をはじめとした各地区商店街の取組を推進し、にぎわいを創出した。 (Ⅲ) 補助金の交付内容について、見直しを行いながら継続して実施する。	11,681
	倉敷市商店街連合会年末大売出し補助金給付事業	(Ⅰ) 市内商店街の活性化を目的に実施した。 (Ⅱ) 倉敷市商店街連合会が平成30年12月1日から28日の期間に実施した、年末大売出し事業に対して補助をした。 (Ⅲ) 継続して実施する。	10,482
	商業振興対策事業費補助金給付事業	(Ⅰ) 市内商店街の活性化を目的に実施した。 (Ⅱ) 商店街の空き店舗における新規出店や、商店街施設の改修などを対象に商店街の補助をした。魅力ある店舗の出店を推進し、商店街の魅力向上を図ることができた。 (Ⅲ) 補助金の交付内容について、見直しを行いながら継続して実施する。	7,543
	高梁川流域「倉敷三斎市」	(Ⅰ) 高梁川流域連携事業の一環として、高梁川流域圏域の地域資源の活性化、倉敷中心市街地の活性化を目的に実施した。 (Ⅱ) 平成30年4月から平成31年3月まで12回朝市を開催し、多くの人々が訪れた。 (Ⅲ) 見直しを行いながら継続して実施する。	9,480
	備中玉島みなと朝市	(Ⅰ) 高梁川流域連携事業の一環として、高梁川流域圏域の地域資源の活性化、玉島商店街(通町商店街、栄町商店街、銀座商店街、清心町商店街、港町商店街)の活性化を目的に実施した。 (Ⅱ) 平成30年4月から平成31年3月まで10回朝市を開催し、延べ10,000人が訪れた。 (Ⅲ) 見直しをしながら継続して実施する。	4,000
	児島三白市	(Ⅰ) 児島商店街の活性化を目的に実施した。 (Ⅱ) 平成30年4月から平成31年3月まで毎月最終日曜日に、朝市を開催し、延べ30,000人が訪れた。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,000
	水島ふれあいまつり	(Ⅰ) 水島商店街の活性化を目的に実施した。 (Ⅱ) 年に2回(春(5月)にいす1グランプリ、秋(11月)にミズシマタ暮れガーデン)イベントを開催し、延べ12,000人が訪れた。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,000

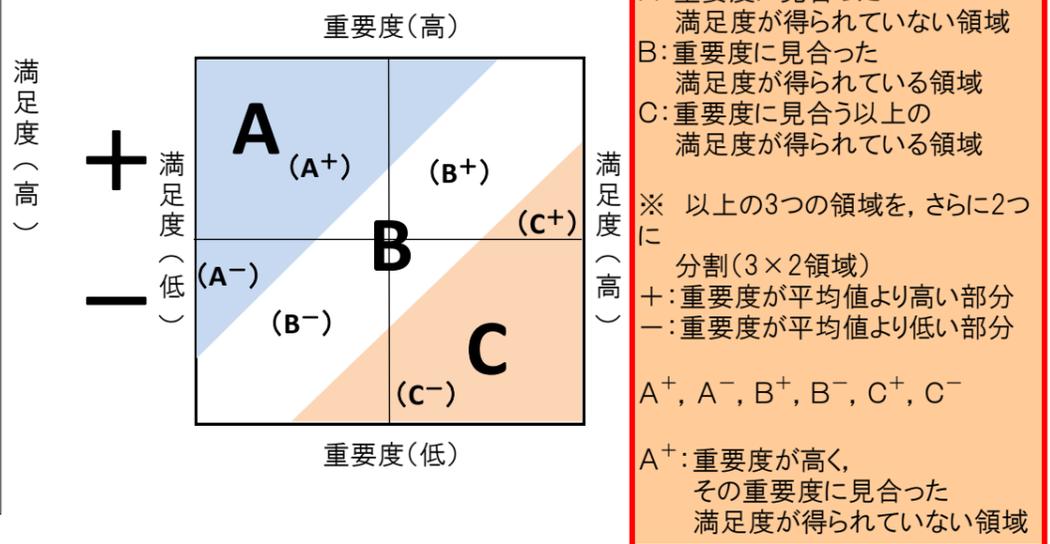
市民の重要度・満足度(R1.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
A <sup>-</sup>	38.22	25.59

●重要度に見合った満足度が得られていない(A)  
●重要度が平均値より低い(-)

【グラフの見方】



課題

- 会員の廃業により店舗数が減少する「空き店舗問題」、店主の高齢化、後継者不足等により担い手が不足する「後継者問題」、商店街活動に魅力がないとの理由から商店街組合に参加しない「組織力低下問題」など、組織体制が弱体化している。
- インターネット販売の普及や、大型商業施設の進出等、小売業態の多様化により、商店街の競争力が弱まっている。
- 一部の商店街では、年々来街者が減少し、地域住民の交流が失われつつあり、商店街のコミュニティ機能が弱まっている。
- さまざまな決済手段が普及してきているが、なかなか対応ができていない商店が多い。

今後の取組み方針

- 今後10年、20年を見据え、地域住民ニーズや商店街の果たすべき役割を的確に把握した意欲ある人材を育成し、商店街組織の組織力強化を図る。
- まちゼミなど、商店街が新たな活性化策にチャレンジし、地域資源を生かす取組を支援する。
- 地域に密着した商店街による高齢者対策や子育て支援など、社会課題の解決に向き合った取組を支援する。
- 国の補助金等を活用し、ハード面での決済手段の整備の推進を支援する。